

## 冬 虫 夏 草

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン  
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

“冬虫夏草” 普段あまり耳にしない言葉だが、中国では滋養強壯、不老長寿の漢方薬として昔から知られている。ネットで調べてみるといろいろな効能が謳われている。今では研究もされているが、それがなかった昔から効能が信じられていた。

冬虫夏草とは冬に菌類が昆虫などの幼虫に寄生して養分を吸収し、夏に虫の頭の部分から発芽して草のように伸びてくるキノコのこと、コウモリガに寄生したものがそう呼ばれている。虫の幼虫をつけたまま陰干しにして利用される。

私がこの漢方薬を知ったのは、2002年8月に第4回ミランクラブ里子訪問ツアーでのことだった。中国の上海、成都経由で空路チベットのラサに入り、その後は陸路でネパール入りするという、なかなかのツアーだった。その経由地の成都で現地ガイドに案内された漢方薬研究所のような店でのことだった。参加者の何人かは既に知っていて、日本より安いと購入していた。私は中国国内での価格にしたら驚くほど高いと思った。私以外は殆どの人が買っていたと記憶している。

それから14年後の2016年今年、ネパール中央銀行から出された「ヤルサグンバ（冬虫夏草）のネパール経済に及ぼす影響について」の報告書を目にした。冬虫夏草はチベット語でヤルサグンバと呼ばれている。

チベットで食用が始まったとされる冬虫夏草の薬効が発見されたきっかけは約1500年前だった。具合の悪いヤクが冬虫夏草を食べているのを遊牧民が偶然見付けた。その後、そのヤクは奇跡的な回復で元気になって住民を驚かせた。確かにチベットでの過酷な生活を乗り切るときの薬効が発揮されていたのかも知れない。

1952年にネパールでも生育していることがわかり、1978年頃には売買が始まっ

た。1kg当たり700ルピーで売られていた。売買が始まった頃は一つ1〜2ルピーであったが、現在は800ルピーと報告されている。一つの大ききの平均は長さ8cm太さ2cmでとても軽いものだ。2000年には1kg35万ルピー、現在は160万ルピーで売買されている。末端価格であろうか、2007年1g3,400円、2010年1g7,400円とされていて金の価格より高い。

ネパールで直接採取している人たちの収入としてはその季節だけで10万ルピーになるようだ。山岳地帯に住む現金収入が少ない、もしくは殆どない人たちにとっては手にできないような額だ。

ネパール政府は採取を禁止していた時期もあったが中国の経済成長に伴い需要が増し、高額での取引ができるため国家財政のため解禁した。採取するためには入山料が必要で売買にも税金がかかる。収穫量全体の95%が中国産でネパールは全体の2%程度である。

高度3km以上の斜面や崖で採れるため危険を伴う。残雪や雪解けでぬかるんでいる場所もあり、毎年足を滑らせ命を落とす者が出る。採れる季節も5〜6月の雨季の前である。地域の村では数週間分生活できるものを用意し一家総出で山に入る。特に子供の目は発見するのに適しているので学校を休ませてまで連れて行く。地上に出ている部分は2、3cmと見付けにくいからだ。地域によっては学校が休校になる。これが今ネパールでは問題になっている。



採れたヤルサグンバを持つ村人